

## 平成 2 5 年度第 1 回

### 流山市地域包括支援センター及び地域密着型サービス運営協議会議事録 要旨

#### 1 開催日時

平成 2 5 年 5 月 3 0 日（木）

1 6 時 0 0 分から 1 8 時 1 0 分

#### 2 開催場所

流山市役所 委員会室

#### 3 出席者

委員

大津委員、奈良委員、稲田委員、長塚委員、市岡委員、鈴木（美）委員、宮本委員、安藤委員、黒田委員、渡部委員、岩井委員、池上委員、鈴木（孝）委員、小山委員、越智委員、大久保委員

出席 1 6 名・欠席 0 名

#### 4 次第

（ 1 ） 開会

（ 2 ） 委嘱状交付

（ 3 ） 会長の選出

（ 4 ） 議題

- ① 地域包括支援センターの平成 2 4 年度事業報告及び平成 2 5 年度事業計画について
- ② 介護予防ケアマネジメント業務の一部委託の承認について
- ③ 地域包括支援センターの第三者評価について
- ④ 地域包括支援センターの職員変更について
- ⑤ 地域密着型サービス事業者の指定及び指定更新について
- ⑥ 地域密着型サービス事業者の廃止について

#### 5 議事（要旨）

## ○委嘱状交付

2名の委員が退任したため、新たに今年度から委嘱する委員2名（長塚委員、越智委員）に委嘱状を交付。

## ○会長選出

### ・副会長

会長が退任され、会長不在のため議事を代わりに進行。

委員16名中1名の到着が遅れているが、全員が出席で、半数以上の出席により協議会が成立している。

会長の選出について、意見を求める。

### ・委員

公平中立の立場の学識経験者として選出されている越智委員に会長をお願いしてはどうかと思う。

### ・委員

異議なし

### ・副会長

異議なしということで、越智委員を会長に選出したい。

### ・会長挨拶

円滑かつ充実した会議にしたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

## ○議題

### ・会長

議題（1）について、事務局から説明を。

### ・事務局

議題（1）について、各地域包括支援センター職員から補足説明。

### ・事務局

それぞれの包括支援センターから事業報告と、事業概要を中心に説明していただきます。

### ・北部地域包括支援センター センター長

平成24年度の事業報告と平成25年度の事業計画

平成24年度の重点目標として、支援の必要な高齢者を早期発見し適

切な支援を行える体制作りを行います。情報がいないために必要なサポートが得られない方に、包括支援センターの存在を知って頂くこと、周囲の方から包括につなぐルートを作りたいと考えている。そのために、地域の方に広く知って頂いたり、民生委員や介護事業所との連携を深めることを1つ目の重点目標とした。

周知活動については、自治会や老人会などの催し物や、地域のケアマネとの勉強会、民生委員児童委員協議会でも機会を頂き、連携も深まったと思う。

今後は自治会や老人会などの催しに出てこない方にどうやってアプローチするのかが課題です。自治会との連携についても、自治会によって活動に差があり、催しにお声かけいただいたところもあったが、パンフレットの配布にとどまったところもあった。

重点目標の2として認知症対策を掲げました。

認知症サポーター養成講座は、高齢者には参加してもらえるが若い方の参加はなかなかない。自治会の集まりでも若い方の参加は少ない。学校や民間企業にも声かけしたが、実施には至らなかった。

認知症高齢者を支える成年後見制度について、老人会などでも機会をもらうことができた。包括オリジナルで作ったエインディングノートなどをコピーして配布した。

平成25年度の重点目標は、平成24年度の活動を継続することと考えていますが、包括のメインは相談業務と考えています。昨年度は435件の新規相談があった。地域で支える支援体制を整えるとともに、個別ケースの支援を通して地域の方に包括の周知をしたいと思っている。

・中部地域包括支援センター センター長

1つ目は高齢者が安心して暮らせる街づくり、2つ目は権利擁護の周知から安心できる生活を支援する、3つ目は地域包括ケアの推進。

中部地域は全体としては高齢化率が低いが、自治会単位で地区のアセスメントをした。また、2年前に独自事業として二次予防事業参加者「意気揚々よつば会」という体操を主に行う住民主体の会を設立し、月2回の開催が継続。

2点目の権利擁護については、周知活動のための学習資料を作りました。

た。困難事例といわれるケース検討を行うことで、関係者の「チームで支援する」という意識づくりにつなげる。

3点目は、地域ケア会議を6回開催した。24年度は災害部門や警察とも交流を持ち、多角的に地域の課題を見ることができた。

今年度は、1番目は「高齢者が安心して暮らせるまちづくり」を4地区に分けて考え、具体的な事業運営に活かす。

2番目の権利擁護は、認知症や「老い方」など関心を持ってもらえるテーマから周知活動を行っていきたい。また、虐待の早期発見のために、日常的にケース検討ができるように発信していく。

3つ目の中部コミュニティ会議について。地域ネットワーク構築のため、スタッフの調整スキルを高めていく。利用者が中心となり、みんなが関わってサポートするよう、関係機関との理解にも努め支援に活かしていきたい。

#### ・東部地域包括支援センター センター長

##### 24年度の事業報告

積極的に地域に出向き、ネットワーク構築と関係機関と協働して問題解決に向け支援に取り組んだ。

24年度は自治会との関わりが増え、東部地区の自治連合会での大規模災害のシンポジウムに参加し、関係機関と交流を図ることができました。地域差はあるが、自治会単位での顔の見える関係づくりが進んできたと考えている。自治会単位で行う講座等を通じて高齢者の身近な相談窓口としての周知今後も継続していく。

相談業務では、包括やケアマネでは抱えきれないケースもあり、今後は必要に応じて、医師や弁護士、地域住民や自治会の方など多方面から意見を頂けるようネットワーク強化を図る。

2つ目のネットワークの構築と地区診断について、24年度はケアマネと民生委員が集まり、それぞれ持つ地域の情報を地図に落とし、お互いの役割を認識することができた。次は地区ごとの課題を整理し、地区の実情に応じた働きかけをしていきたいと考えている。

3つ目の認知症支援対策の強化について、相談のケースは年々増えているが、消費者被害では本人が被害を受けているという自覚がない場合も多く、支援に入ることが難しいこともある。また、制度の理解や

周知も低いため、今後も継続していく。

認知症の方への支援としては、自治会等の協力を頂き、地域で認知症サポーター養成講座を行った。また、それぞれの方が地域で活動する時に、オレンジリングをつけ啓発活動をしています。ネットワークの和として広がるといいと考えている。

25年度は重点目標には変わりなし。

予防教室開催の実績の少ない地域に出向き、周知活動に努めたいと考える。

また、包括支援センターの機関紙「絆」を発行しているが、地域の医療機関と連携するため、医療機関の紹介を載せている。今後も民生委員やケアマネを交え、事例を通じて地区の特徴をつかみ、働きかけにつなげていく。また、認知症サポーター養成講座も継続していく。

- ・南部地域包括支援センター センター長

24年度の事業報告

重点目標は顔の見える関係づくりとして、地域の関係機関と協働し、総合相談から問題解決に向けての体制作りを図り、見守りを通じた個別のネットワークづくりなどにつなげることができた。

また、支援を要する高齢者の早期発見のため、広報誌やチラシ、ホームページを作成し、地域での広報活動を行うとともに、出前講座や認知症サポーター養成講座など積極的に行った。

また、二次予防事業の参加者による月1回「こつこつ貯筋教室」を継続していく。

居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員を中心としてケアマネ交流会を開催し、情報共有や事例検討を通じ、主任介護支援専門員自身も経験を重ねる機会を多く持てるようにした。

平成25年度も「顔の見える関係づくり」を継続し、地域の関係機関との連携・協働を図り、包括内の専門職の連携によるチーム支援につなげる。

- ・会長

意見、質問。

- ・委員

よく報告されていると思う。

可能であれば、それぞれに印象的な事例があれば発表していただければ聞きたい。

- ・各地域包括支援センターの報告

- ・独居で認知症の方への地域ケア会議を通じた事例
- ・医療や周囲との関わりを拒む独居の方への支援の事例
- ・閉じこもりの子による虐待の事例
- ・民生委員からの情報による、独居で認知症の方の安否確認の事例

- ・委員

福祉の団体で介護保険外の有償の活動もしている。常々思っているが、老老介護をしていた方の中には、包括というところがわからないという人もいる。間に入って包括の紹介もしているので、これからもよろしくお願いします。

- ・委員

事務局へ、資料の配布が遅い。

4か所、地域も違うので特色があると思う。相違点と4か所共通の課題があるか、話し合いをしたか。

町会長や民生委員が変わるとフットワークがよくなった。そのような変化を感じているか。

表に出ない問題、地域の孤立化等の取り組みをしっかりといただけるとよいと思う。

専門知識や医療との連携について

- ・事務局

資料の遅れについてお詫び。

情報の共有化については、月に1回連絡会を開催し情報の共有を図っているが、個別の事例検討はできていない。しかし、前回、虐待事例などを中心に、困難化するものなどの事例検討をして共有化しようと話合ったところ。

- ・北部

北部全体は市内でも高齢化率が高い地域。特に団地で高齢化率が高いところがある。役員の変更で、新たに声をかけていただいた自治会もある。今年度も踏み込んでいきたいと考えている。

- ・ 中部

自治会の情報が不足しているところは、賃貸住宅が多いところとわかっている。水面下の課題は、支援に結び付けば責任を持って支援している、支援に結びつかないケースを「包括へ」と紹介された場合、丁寧にやっていかないと重大な結果を招くことになる」と認識しているが、現実には1万人近い対象に対し5人では難しいところがある。

また、弁護士の見解を聞きたいと思うことが時々ある。

- ・ 東部

高齢化率が40%に届くような地区もある。これから認知症の方などが心配される地域。地域のサロンなどで活動が活発なので、地域に出て行かれるようにしていきたい。

表に出ないところで、認知症の方が市外のスーパーで「万引き」として目をつけられ、つらい思いをしています。日中過ごす場所を整えたが、市を跨いだケースが今後出てくると思う。

- ・ 南部

人口が多く、相談件数も多い。相談の内容としては介護保険につなげるケースが多く、見守り活動の中から、気になる方が出てくる。南部も松戸市と接しており、隣接地域では他市との連携も必要だと思う。自治会活動については、マンションなどは毎年会長が変わるので、チラシ等を持って毎年伺っている。

- ・ 委員

各センターで地域の自治会などで理解を深めるために活動していただいている。高齢者は支援を受ける時代に生まれていないが、家族のためにも「今はそういう時代だ」と誘い合っている。

流山でも農村や住宅地など地域性があることを、自分も転居して理解した。老人会に入ることで密接に付き合いができ、入院した等も情報が入る。

- ・ 副会長

長く出席しているが、最初のころとあまり変わっていない。市内の医師が認知症とどのようにかかわっているかという点、遅々として進まないが少しずつ進んでいる。関心のある先生はいるが、あまり関心のない先生もいる。このままではやっていけないと思うので、少しずつ

医師会とケアマネなど各職種との交流も深め接近していきたいと考えている。

昨日、行政書士の集まりに呼ばれた。話題になったのは孤立世帯で、これにどうかかわるかということ。接近の仕方と、接近できた後どう関わるかが難しい。

面と向かうと人間は緊張するので、寄り添うような見守りの仕方もあるのではないかとということが話題になった。

- ・ 会長

基本的には地域包括支援センターの活動を支援する意見であり、事務局も指摘を踏まえて活動を進めていただきたい。

- ・ 議長

引き続き議題（２）について事務局から。

- ・ 事務局

議題（２）介護予防支援に係るケアマネジメント業務の委託事業所について

北部地域包括支援センターから届出があった事業所は、市内の居宅支援事業所です。現在ケースはないが、北部地域の事業所であり、今後委託の可能性があることから届出があった。

事業所の方針は適切であり、事業所開設後１年を経過し、必要な研修を受講している介護支援専門員が介護予防ケアマネジメントを担当するという承認の要件を満たしていることから、本日も意見を頂き承認したい。

- ・ 議長

引き続き、議題（３）について事務局から。

- ・ 事務局

議題（３）地域包括支援センターの第三者評価について

３月の本協議会で話した通り、前年度の事業実績を自己評価した後に評価委員会により、評価シートとヒアリングによって評価する。評価委員会には本協議会から５名の方をお願いしたいと考え、次回の協議会で選出していただきたい。

評価を受け、来年度どう取り組んでいくかを載せてシートを完成させたい。具体的な項目は７つのテーマに沿ってあげている。



本日はこの項目についてご意見を頂き、頂いた意見をもとに次回案を提出したい。

資料の送付が遅れたため、後日事務局からシートを送付するので、意見を寄せていただき、次回の案に反映させたい。

- ・ 会長

事務局から意見の聴取に関するシートの送付について、異議のある委員は。

事務局提案に沿って行うということでよろしいか。

- ・ 委員

前回よりスリムになった。ほどほどでよいのではないか。だいたい網羅されていると思う。

- ・ 委員

実際に相談に行ったときに、最初の窓口は誰になるのか。

- ・ 事務局

高齢者の総合相談窓口としてやっているので、最初の受付は誰でも行う。その中で専門的な対応が必要ということがあった場合には、中で検討して専門職が対応する。

- ・ 委員

能力の差があるので、その日替わりで誰でも受けるというのは違うのではないかと思う。

- ・ 事務局

包括の対応については、均一化した対応ができるよう、市も日々研鑽に取り組むよう働きかけていきたい。

- ・ 委員

ケアマネの立場から。包括の方々も、業務が色々あって忙しい。いつも3職種が常駐してられない。窓口が誰と決めるより、誰が受けても均一な対応ができるよう望む方が現実的と思う。

- ・ 委員

第三者の評価についてですが、各包括から報告があったように、多様な事例に対応している。1日で済むような事例ではなく長くかかる。その中で第三者評価ということで、評価のあり方や内容について、包括の事務的負担をある程度考慮して行かないといけないと思う。

- ・ 委員

運営協議会から5名出すとあるが、第三者と言えないと思う。ケアマネや民生委員からも入れていかないと、確かな評価が出てこないと思う。

- ・ 事務局

今年度はスタートと捉えています。スタートのところでは、皆様方に委員となつていただき、その反省を踏まえ次年度の評価を更に実のあるものにするために検討していきたいと考えている。

- ・ 委員

地域特性という話があった。

この評価は、内部の管理体制がよくできているかということになっているが、地域住民という顧客にとってよいセンターかということもある。各項目の中に、センターとして重点的に取り組んでいる内容を書くところを設けてはどうか。

- ・ 事務局

目指すところは、ネガティブな点を指摘するのではなく、重点活動など立派にやっている点をまず強調していきたいと考える。

- ・ 会長

ここで出せなかった意見については次回。

議題（４）について事務局から。

- ・ 事務局

議題（４）地域包括支援センターの職員変更について報告。

中部地域包括支援センターから職員変更の届出がある。

一つ目は、４月１日付けで非常勤の看護師と事務員が自己都合により退職した届出を受理した。

二つ目は、５月１日付けで社会福祉士を採用。５月から産前休暇に入る社会福祉士の後任として、病院等でソーシャルワーカーとして相談援助業務に従事していた職員を、新たに採用した届出を受理。

- ・ 議長

議題（５）について事務局から

- ・ 事務局

議題（５）地域密着型サービス事業者の指定及び指定更新について

プラチナホーム一宮なのはなの指定について、千葉市在住の長男から当該施設への入所希望があり、一宮町の施設利用の同意をとり、5月15日付けで指定した。

徳島県のグループホーム「えんじゅ」、市内の認知症対応型通所介護「グループホーム花いちもんめ」について、指定更新した。

- ・議長

議題（6）について事務局から

- ・事務局

認知症対応型通所施設の閉鎖について

前回報告いたした、NPO法人ゆったりほ一むが運営するデイサービスセンター初石のおうち、デイサービス十太夫のおうち、及び居宅支援事業所初石のおうちの3事業所を5月末日で閉鎖する旨の届出が4月22日付けであった。

利用者の状況について、利用者は1名を除きそれぞれ他でサービスを受けているという報告だった。昨日再度確認したところ、その1名の利用者は、身体が悪化したことにより在宅での介護が可能になったということで家族で介護している。ケアマネからは今のところ安定していると報告を受けている。

- ・委員

流山市が平成26年度まで計画を立てているが、この辺の進行状況は。

- ・事務局

第5期事業計画の中では、地域密着型施設関係は平成26年度中に2ユニット18人定員の事業所を木地区で開設予定。

定期巡回・随時対応型訪問介護看護について、4月1日からサービスがスタート。在宅メインで活動するのは難しいと聞いていたが、4月当初から3件の契約を得ていると報告を受けている。居宅の利用者の契約を得ていることは、よい状況と考えている。

- ・委員

定期巡回・随時対応型訪問介護看護について、使わせていただくケアマネの立場から伺いたい。

制度上、訪問介護をすると、他の事業者が入っていたところは併用できないということを入ってから知った。併用もできると考えていた。

定期巡回を使うような方は、訪問介護を色々使っていて長くなじんでいて人間関係も大事なことで、定期巡回が担える部分と、これまでの事業者が担う部分を住み分けて上手に使えたら、利用者にとっていい形で活かせるのではないかと考えている。両方使えるようになると、特徴を生かして利用が増えていくのではないかなと思う。

- ・事務局

従来型のホームヘルプサービスが入っている方に定期巡回が入る場合のことについては、介護保険法令でルールづけられているところなので、法令に従って適切に対応していきたいと考えます。

利用者の気持ちはわかるが、ルールの中で利用していただくのを第一とし、ルールの中で運用がきく面については現場でやっていきたいと考える。

- ・委員

私も理解不足なので正しいかわからないが、併用している保険者もあると聞いたようだが。

- ・事務局

情報については、個別に確認となりますが、ルールに従ってやっているはずなので参考にしていきたいと思う。

- ・会長

その他として事務局から。

- ・事務局

次回、平成25年度第2回の運営協議会は、7月4日木曜日、会場は中央公民館を予定。時間等詳細は後日通知。

議題（3）の議題について、改めてシートを配布します、意見を寄せていただきたい。

また、本協議会の進め方について、次回からは1週間前までに資料を届け、その中に意見の聴取シートを入れるので、当日補足説明をしながら進めたい。資料で1週間前までに届けられないものは、追加で送付又は当日配布としたい。

- ・司会

この提案について委員の了解を得て閉会とする。